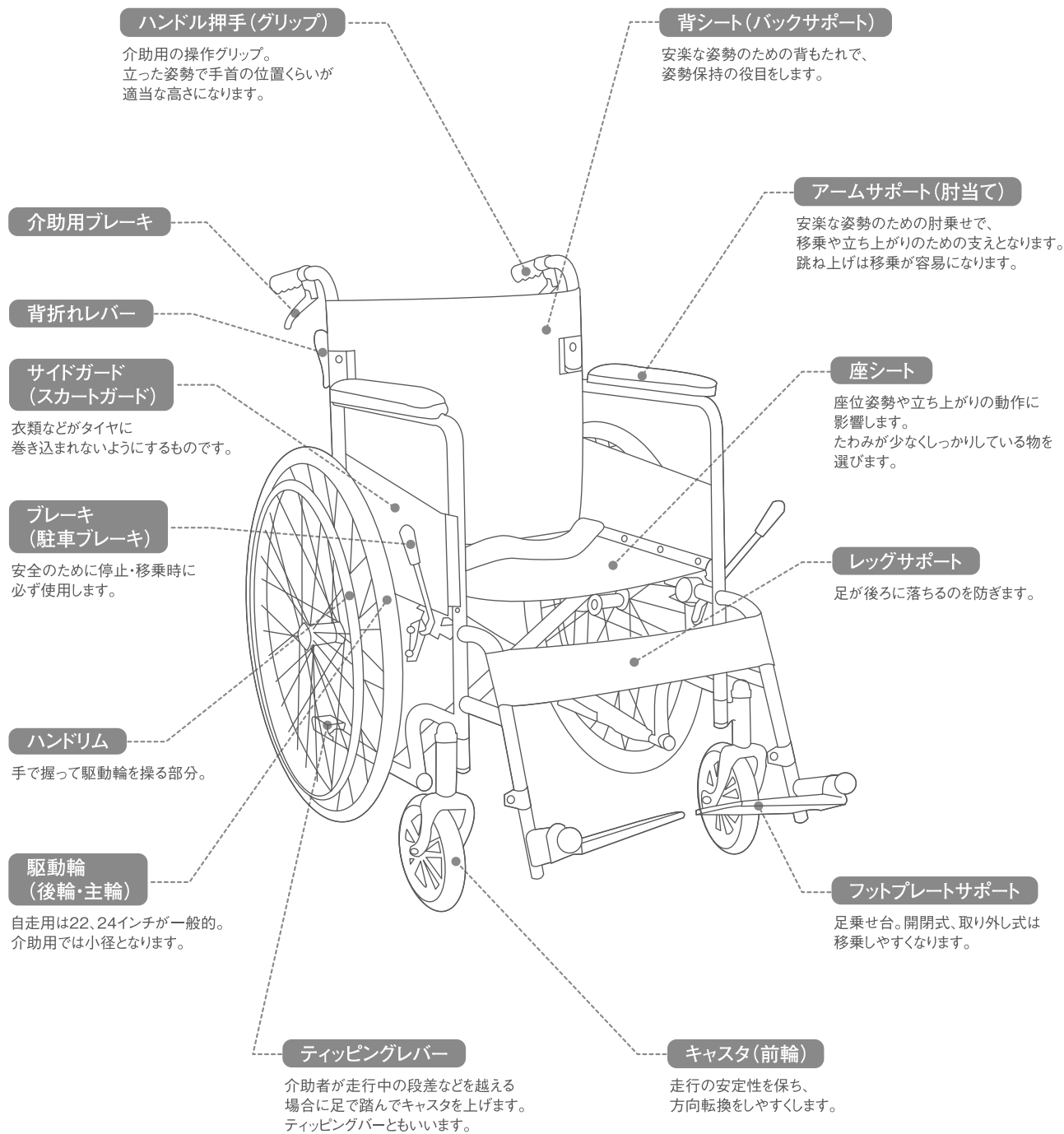


車いす 基本構造



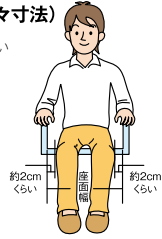
車いす セレクトシリーズ

Select series

車いすの採寸について

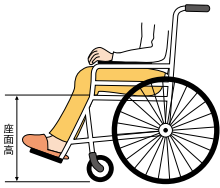
① 座面幅(肘掛けパイプ内々寸法)

おしりの横で手のひらが入る約2cmくらいのゆとりがあるのが理想的です。



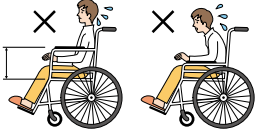
③ 前座高

下腿長より5cmほどプラスした高さが立ち上がりやすく、座りやすく理想的です。足こぎをされる方は1~2cmプラスしてください。また、膝関節の可動域に制限のある方は高めの座面を選ぶのがオススメです。(クッション等を敷く時はその厚みを考慮してください。)



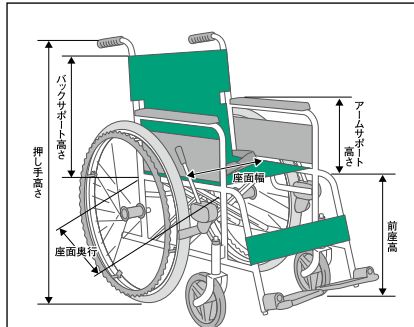
⑤ アームサポートの高さ

座る面から90°に曲げた肘の高さを目安に2~3cm高めが理想的です。上がりすぎず、下がりすぎない高さを選びましょう。(クッション等を敷くときはその厚みを考慮してください。)



【高すぎる場合】
肩が押し上げられ、アームサポートを使用せず、上股を遊ばせてしまいます。

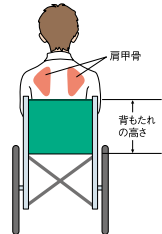
【低すぎる場合】
肩が下がって、前傾姿勢になってしまい、疲れやすくなります。



大きすぎても小さすぎても、乗られる方はつらいもの…。車いすは乗る方のサイズに合っていることが一番の条件です。以下の点に注意して、自分にピッタリの車いすをセレクトしてください。

⑥ 背もたれ

自走できる方は肩甲骨の下端部に触れるくらいの高さが理想的です。ひとりではわかりにくい場合は、家族などに見てもらいましょう。



② 座面奥行(シートの奥行)

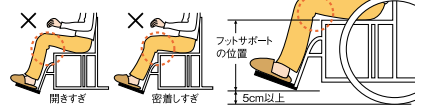
おしりの後ろから膝の裏までの長さを参考に、その長さより約5~7cm短いぐらいが理想的です。

【座面奥行が長い場合】
ずっこけ座りの原因になってしまいます。
【座面奥行が短い場合】
おしりにかかる圧力が大きくなり、
血行障害や皮膚の損傷のもと
なってしまいます。



④ フットサポート長

太ももが軽くシートに触れている位置で床から5cm以上が理想的です。シートと太もものすき間は開けすぎず、密着しすぎないように気をつけましょう。



⑦ 押し手の高さ

介助者の肘が軽く曲がり、力が入りやすい位置が理想的です。(一般的に介助者のヘンの高さが目安です。)



車いす セレクトシリーズ

KS50

背折れ&介助ブレーキ付の自走式タイプ



KS50-4043GC
(グリーンチェック)

■ シートカラー



グリーン
チェック(GC)



ネイビー
チェック(NC)



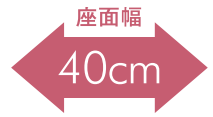
折りたたみ時

セレクトシリーズ KS50 標準 (自走式 背折れタイプ)



■背折れ・自走 ■介助ブレーキ ■安全ベルト
■アルミフレーム ■耐荷重100kg

¥85,000 (非課税)



品番	KS50-4043GC	グリーンチェック
	KS50-4043NC	ネイビーチェック
JANコード	KS50-4043GC	4968501- 903274
	KS50-4043NC	4968501- 903304
TAISコード	00690-000044	

■仕様

カラー	グリーンチェック、ネイビーチェック	
サイズ	W63.5(30)×D99.5(88.5)×H89(66.5)cm ()折りたたみ時	
前座高	43cm	
後座高	41cm	
座面幅	40cm	
座面奥行	40cm	
バックサポート高	43cm	
アームサポート高	21.5cm	
前輪	6インチ	
後輪	22インチ	
重量	14.2kg	
耐荷重	100kg	
主材質	フレーム(アルミ)、キャスト(PU)、 シート(ポリエステル)	

車いす

ショッピングカート
シルバーカー

歩行車

歩行器

クラッチ

ステッキ
オフショ
ン

バスケット

電動ヘッド
・家具
ケアリフター

ロールボックス